

つながる鎌倉エール事業
令和 7 年度実施事業報告会 各取組の講評

■スタートアップコース

1 体験！音楽交流ワークショップ“音楽でおしゃべりしよう♪”（NPO 法人シュピーレン）

①評価できる点

- ✚ 音楽を通じた感動体験を得られる活動であり、活動を通じて蓄積されたノウハウは非常に質が高く、素晴らしい活動として広く展開すべき価値がある。
- ✚ 利用者のニーズを的確に捉え、ボランティアや施設関係者も巻き込んだ活動へと発展させている。

②課題点

- ✚ 事業の継続にあたり、資金面と人材確保に課題が残る。現状の活動において、代表者一名への負担が大きいため、団体外の仲間を増やし負担を軽減する手立てが必要である。
- ✚ 団体の成果を広く発信し、より多くの共感を得るための工夫が求められる。

③今後のアドバイス

- ✚ 活動の写真や映像を取り入れながら、「どのような課題を持つ人が参加し、どう変化したか」というエピソードや、活動に対する「思い」を発信することで、共感する協力者を募り、それぞれの強みを活かしながら、良い活動にしていってほしい。
- ✚ 財政的な課題について、NPO センターを活用しながら、今後どのように事業を展開していくか計画を立ててほしい。

2 そーっとあとおしサポート（NPO 法人いっぽー歩）

①評価できる点

- ✚ 社会的な孤立や引きこもり、不登校児童など、幅広い層を支援対象としている事業であり、今後の発展が期待される。

②課題点

- ✚ 申請時からの課題であった人員の体制づくりが、改善されていない点が課題として残る。
- ✚ 提案時に課題としてあがった本業（インクル）との差別化が不十分であった。

③今後のアドバイス

- ✚ 利用者が最初の窓口として「相談」を利用した後、相談内容に合わせた支援メニューに繋がられるよう計画を立ててほしい。
- ✚ 他団体の事例を参考に支援メニューの多様化を図るとともに、今後の事業発展のために、地域のネットワークとの積極的な連携についても検討してほしい。

3 オーガニックマルシェ・食にまつわる映画の上映会の企画・運営（NPO 法人おいしい給食かまくら）

①評価できる点

- ✚ 課題解決に向けてあらゆる手法でアプローチしていることが良い。
- ✚ 地域との連携を重視することの大切さを理解して活動していることが良い。

②課題点

- ✚ 複数の取組を並行しているため、それぞれの活動を整理しながら、全体像とそれぞれの取組の位置づけを明確化し、中長期的なロードマップの策定をすることが求められる。

③今後のアドバイス

- ✚ 一般消費者がもつ「オーガニックは高価」などといったネガティブな印象を払拭するため、活動中の楽しい様子や情報を発信し、新たな層を惹きつけるとともに協力者も増やしながらか活動を広げてほしい。
- ✚ 教育委員会等との連携を強化し、学校の校外学習に本事業を組込むなど、活動の場を広げる取組を検討してほしい。例えば、学校内の花壇を活用し、教員や児童、近隣農家が協力して農園を運営している既存の事例がある。こうした先行団体と積極的に連携を図り、そのノウハウを共有しながら今後の活動展開に繋げていくことを期待したい。

4 かまくらキッズプログラミング（かまくらキッズプログラミング）

①評価できる点

- ✚ 関係団体を巻き込み、活動場所を確保することで、利用者が無料で参加できる持続可能な仕組みを構築した点が高く評価できる。

②課題

- ✚ 取組を多くの人に知ってもらうことが今後の課題である。特に、真に支援を必要とするターゲット層へのアクセスが難しく、広報のあり方や対象者へのアクセスに工夫が求められる。

③今後のアドバイス

- ✚ 初期投資による機材を有効活用し、事業収入とのバランスを図りながら活動を継続してほしい。
- ✚ 数年にわたる継続的な活動を通じて地域での信頼を築くとともに、同様の目的を持つ他団体との連携により、多角的な支援体制を目指してほしい。

5 つながるコミュニティ農園 ～地域で育てる「野菜」と「つながり」～（未来鎌倉をつくる会）

①評価できる点

- ✚ 単なる農園づくりに留まらず、防災や地域インフラの構築、孤立防止を目指すなど、高い展望を持って活動している。
- ✚ 団地内の人だけでなく、自治会町内会等の地域住民を効果的に巻き込み活動している。

②課題点

- ✚ 活動を広げていくうえで、団地の農園拡大に伴う権利問題や資金調達の課題を解決するとともに、農園を管理するための人員配置など、運営体制の維持について見直していく必要がある。

③今後のアドバイス

- ✚ 活動目的が多岐にわたるため、まずは的を絞って着実な成果を積み上げてほしい。
- ✚ 地域活性化コースへのステップアップを視野に入れ、団地内や他団地の孤立者への働きかけなど、独自のノウハウを培っていくことを期待する。